

2017年10月19日 全4頁

# Indicators Update

## 2017年9月貿易統計

単月では減少するも7-9月期の輸出数量は前期比+2.0%

経済調査部  
エコノミスト 笠原 滝平  
エコノミスト 小林 俊介

### [要約]

- 2017年9月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.1%（市場コンセンサス：同+15.0%）と前月（同+18.1%）からプラス幅が縮小した。米国向け輸出数量などが減少したことが要因である。9月の税関長公示レートは109.48円/ドルと、前年比で見ると7.5%の円安水準であった。
- 季節調整値で見た輸出金額は前月比▲0.3%と3ヶ月ぶり、輸出数量は同▲2.0%（季節調整値は大和総研による）と5ヶ月ぶりに減少した。輸出数量を地域別に見ると、米国向けが同▲1.6%、EU向けが同▲2.7%、アジア向けが同▲0.4%と揃って減少した。なお、7-9月期の輸出数量は前期比+2.0%となった。
- 先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続けるなか、緩やかな増加基調をたどるとみている。ただし、外需に関しては下振れリスクに警戒が必要である。特に、米国ではFedが利上げを行うことが見込まれ、これに伴い、米国経済の減速や新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。

図表1：貿易統計の概況（原系列、前年比、%）

	2017年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
輸出金額	1.3	11.3	12.0	7.4	14.9	9.6	13.4	18.1	14.1
コンセンサス									15.0
DIR予想									14.6
輸入金額	8.4	1.3	15.9	15.2	17.9	15.5	16.3	15.2	12.0
輸出数量	▲0.3	8.3	6.6	4.2	7.5	4.0	2.6	10.4	4.8
価格	1.6	2.8	5.0	3.2	6.9	5.5	10.5	7.0	8.9
輸入数量	6.3	▲4.3	4.2	4.9	5.4	4.2	3.2	2.4	▲0.3
価格	2.0	5.8	11.3	9.8	11.8	10.8	12.6	12.6	12.3
貿易収支	▲10,919	8,111	6,103	4,792	▲2,064	4,414	4,220	1,126	6,702

(注1) 貿易収支は億円。

(注2) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

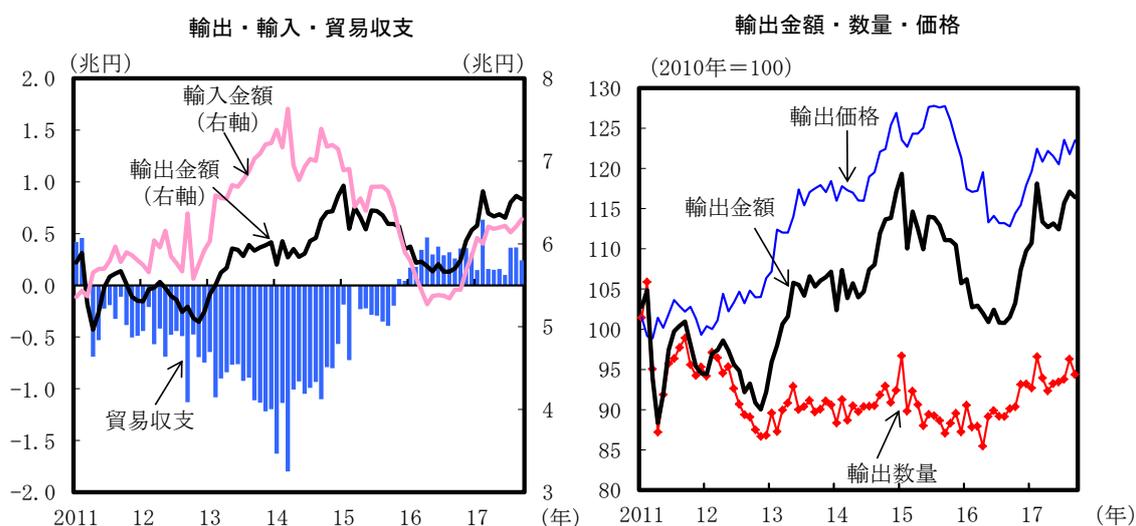
## 貿易収支は4ヶ月連続の黒字

2017年9月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+14.1%（市場コンセンサス：同+15.0%）と前月（同+18.1%）からプラス幅が縮小、輸入金額は同+12.0%と前月（同+15.2%）からプラス幅が縮小した。貿易収支は+6,702億円と4ヶ月連続の黒字となった。

輸出・輸入金額を数量要因と価格要因に分解すると、輸出金額の数量要因は米国向け輸出などが落ち込み、輸出金額の増加幅が縮小した。輸入金額は数量要因が小幅な減少に転じるなか、輸入価格が高水準を維持したことで輸入金額全体のプラス幅は小幅な縮小にとどまった。9月の税関長公示レートは109.48円/ドルと、前年比で見ると7.5%の円安水準であった。

季節調整値で見ると、輸出金額は前月比▲0.3%、輸入金額は同+0.7%となった結果、貿易収支は2,403億円の黒字となり、前月（3,083億円の黒字）から黒字幅が縮小した。

図表2：輸出金額・数量・価格、貿易収支（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸出価格の季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

## 米国向け輸出数量の減少により輸出数量全体は5ヶ月ぶりの減少に転じた

輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比▲2.0%と5ヶ月ぶりの減少に転じた。

地域別に見ると、全体を下押ししたのは前月比▲1.6%と減少が続いた米国向け輸出であった。特に、自動車輸出の減少が大きかったとみられる。これは、8月末から9月上旬に生じたハリケーンの影響の可能性が指摘できよう。一方で、すでに9月の米国自動車販売台数は復興需要に伴い大幅な増加に転じている。日本からの米国向け輸出も一時的に上振れる可能性には留意が必要だ。アジア向け輸出は同▲0.4%と3ヶ月ぶりに減少したものの、減少幅は小幅にとどまった。ICなどが小幅な減少に転じているが、高水準を維持しており減少懸念は小さい。EU向け輸出は同▲2.7%と4ヶ月連続の減少となった。EU向け輸出の減少は自動車の落ち込みの影響が大きいと考えられる。英国をはじめとして自動車販売が抑制されており、背景にはBrexitに伴う

懸念が指摘できよう。

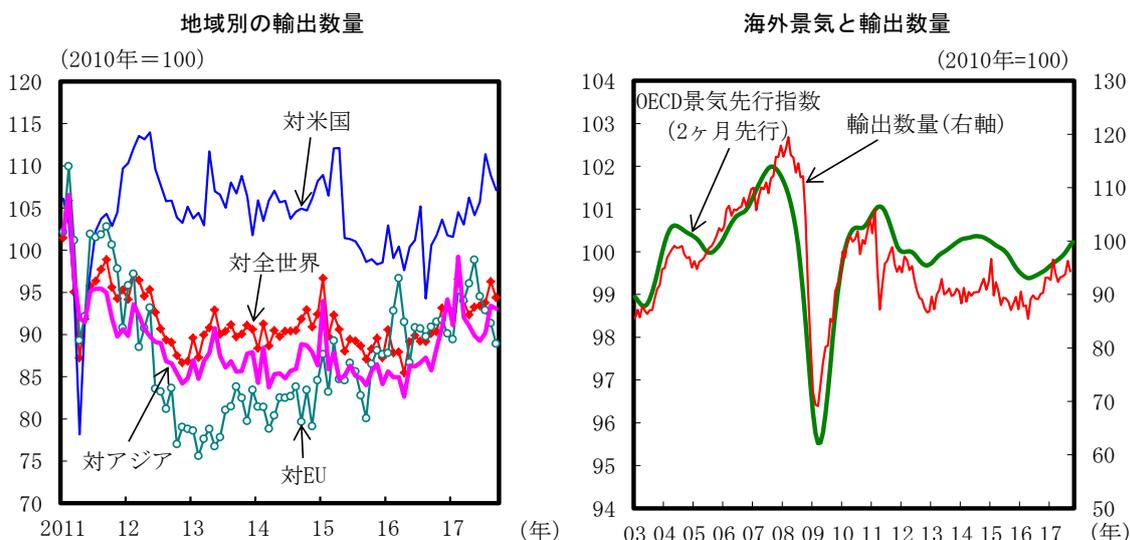
なお、7-9 月期の輸出数量は前期比+2.0%と 2 四半期ぶりの増加に転じた。輸出数量は財の動きだけを捉えており、さらに付加価値の変動が加味されていないため、そのまま GDP 統計の財・サービスの輸出と比較することはできないが、財の輸出が実質 GDP を押し上げる可能性が高まったと言えるだろう。

### 輸出数量の見通しは緩やかな増加基調

先行きの輸出について、海外経済が底堅い成長を続けるなか、緩やかな増加基調をたどるとみている。世界的な半導体需要の高まりを背景に、振れを伴いながらも米国やアジア向けの半導体や半導体等製造装置などの輸出も増加傾向となる見込み。自動車販売に弱さが見られるものの、米国経済は回復基調にあり、米国向け輸出は緩やかに増加する見込み。また、欧州経済はこれまでの景気けん引役であった個人消費に加えて、足下では設備投資などの固定資本形成も伸びており、バランスの良い景気拡大局面へ移行しているため、EU 向け輸出は拡大が見込まれる。

ただし、外需の下振れリスクには警戒が必要である。米国では、Fed が 2017 年 6 月に利上げを実施し、年内に更なる利上げを行うことが見込まれる。米国の金利が上昇する場合には、米国経済の下押し圧力になることに加えて、新興国市場からの資金流出を招く可能性がある。また、ECB においても来年以降の資産買い入れの圧縮（テーパリング）などが発表される可能性があり、同様に EU 経済の下押し圧力となりうる点に留意が必要だろう。また、足下で北朝鮮をめぐる地政学的リスクの高まりが見られ、為替市場の変動を通じた貿易への悪影響に懸念がある。

図表 3：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



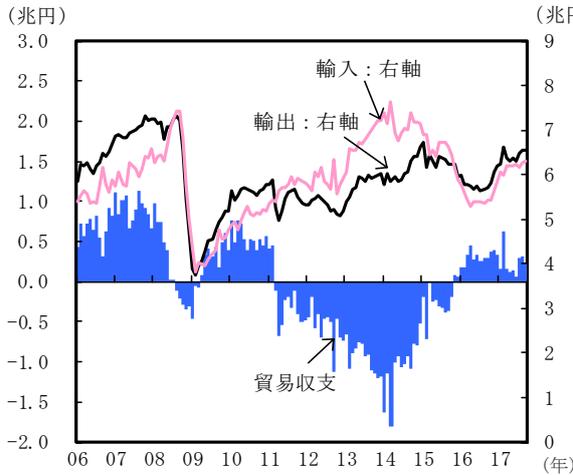
(注1) OECD景気先行指数 (CLI)はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

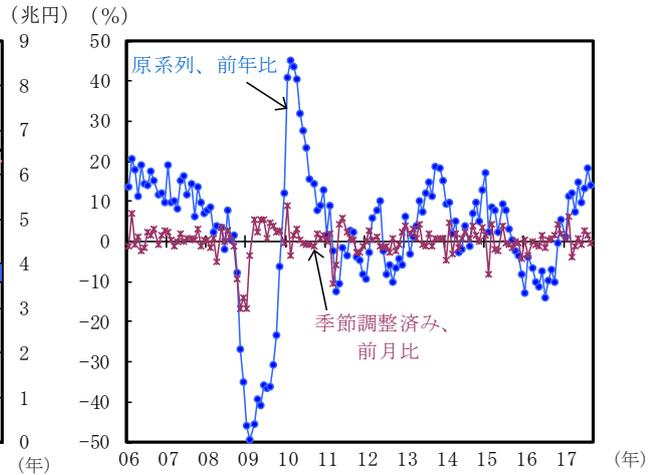
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

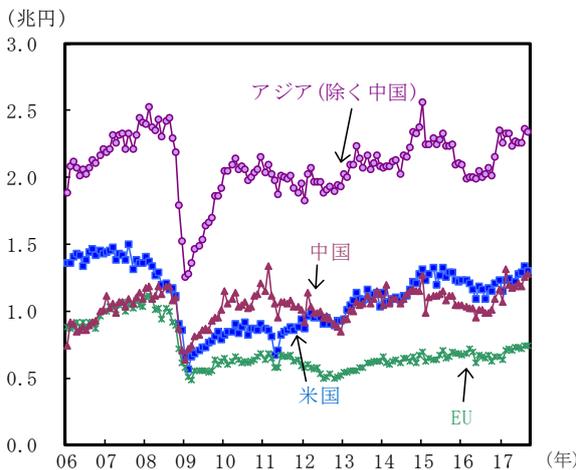


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

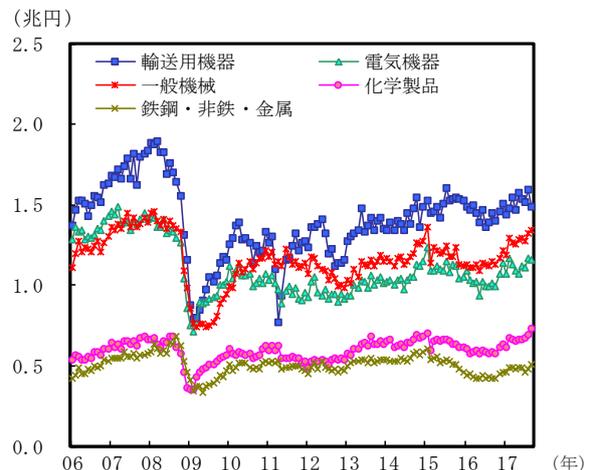


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)



(注) 季節調整は大和総研。  
(出所) 財務省統計より大和総研作成

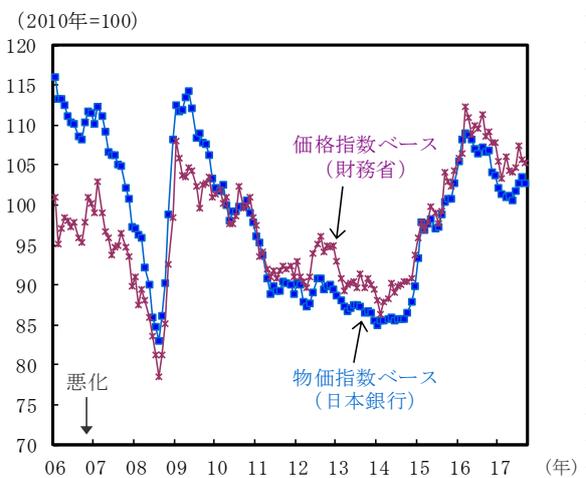
主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)



為替相場



交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。  
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成